

# 輪島 KABULET®

## 【キーワード】

〔施設種別〕 ■高齢者施設 ■障がい者施設 ■子ども施設 □住宅 ( )  
〔運営主体〕 □市区町村 ■法人 □NPO □個人 〔補助金〕 ■内閣府 □国土交通省 □厚生労働省 ( )  
〔建物形式〕 ■1棟単体型 ■複数棟集合型 □団地型 〔建物状況〕 ■新築 ■増築 ■改修 ■一部改修 □既存  
〔対象者〕 ■高齢者 ■障がい者 ■子ども ■ファミリー ■多世代



写真1. 「輪島 KABULET®」の拠点施設

輪島市中心部に点在する空き家や空き地を活用し、地域に暮らすすべての人々が「ごちゃまぜ」に共生するまちづくりをめざす「輪島 KABULET®」。地方創生を推進する内閣府の「生涯活躍のまち」の先行モデルの一つとして採択され、地域住民の生活支援のみならず、障がい者雇用や観光業、伝統工芸の活性化への貢献が期待されるプロジェクトである。

## ■輪島市の概要

能登半島の北西に位置する石川県輪島市は、豊かな緑と海に囲まれた奥能登の中核となる都市である。中世には海外との日本海交易の拠点、近世には北前船の寄港地として栄える海上交通の要衝であった。また、1000年以上の歴史があるとされる輪島朝市（写真2）や、江戸中期以降から盛んになった漆器業（輪島塗）は、歴史的にも貴重な輪島の財産となっている。

一方で、輪島市の少子高齢化の問題は深刻化している。人口は、門前町との合併時(2006年)の約3万5千人から、2018年には約2万8千人に減少し、主要産業である輪島塗の生産額も長期にわたり右肩下がりに続くなど、地域の活力低下が危惧されている。

このような状況を受け、輪島市は、過疎や高齢化対策として「漆の里・障害活躍のまちづくりプロジェクト」の計画を立案し、その事業の一環として、社会福祉法人佛子園と連携して「輪島 KABULET®」のプロジェクトを始動させた。

## ■輪島 KABULET® の概要

「輪島 KABULET®」は、佛子園と JOCA、輪島市が連携して進める「漆の里・生涯活躍のまちプロジェクト」の一環事業である。

佛子園は、高齢者や障がい者、子育て支援などに関わ



写真2. 1000年以上の歴史をもつ「輪島朝市」の風景  
輪島朝市は通称「朝市通り」と呼ばれる約360mの商店街で毎朝行われている。今では200以上の露店が立ち並び、地域住民や多くの観光客が訪れる。

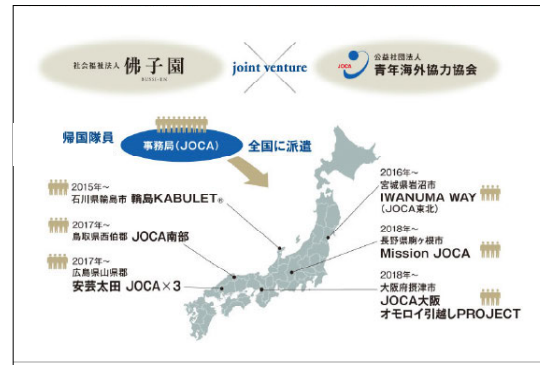


図1. 佛子園と JOCA の連携により派生した事業展開  
輪島カブールウェブサイトを  
年間約1000人の帰国隊員を輩出する JOCA の人材を活かし、「輪島 KABULET®」を皮切りに、日本各地でさまざまな「地方創生事業」が取り組まれている。

参考文献

- 1) 輪島市ホームページ、<https://www.city.wajima.ishikawa.jp>
- 2) 能登輪島観光情報 輪島ナビ、<http://wajimanavi.lg.jp/www/access/index.jsp>
- 3) 雄谷良成、竹本鉄雄：ソーシャルイノベーション 社会福祉法人佛子園が「ごちゃまぜ」で挑む地方創生！、ダイヤモンド社、2018年9月
- 4) 輪島カブーレホームページ、<https://wajimakabulet.jp/>
- 5) 公益社団法人青年海外協力協会ホームページ、[www.joca.or.jp/](http://www.joca.or.jp/)

る福祉事業を多角的に企画・運営する社会福祉法人である。JOCA は、青年海外協力隊の帰国隊員を中心に組織される内閣府認定の公益社団法人である。

この二団体が連携し、それぞれのスタッフの得意分野を活かすことによって、各種福祉事業や保健医療、保育関係、農園や子供向けプログラムの企画、高齢者等にも対応したフィットネス事業など、多岐にわたる事業の展開が実現した（図1、図2）。

さまざまな分野の経験者がプロジェクトに携わることで、多様な人々が共生できる複合型の地域共生施設が誕生し、それらが地域に点在することによって、人や環境の多様性が生み出されている先進的な事例である。

また、「輪島 KABULET®」の施設の特徴は、輪島市の街中再生計画として、市中心部に点在する空き家や空き地を再生活用していることである。進行する人口減少や旧市街地の空洞化に歯止めをかける効果が期待される。

そして、就労継続支援 A 型および B 型の就労支援サービスを実施する点も佛子園連携ならではの事業である。



図2. 「輪島 KABULET®」施設マップ 輪島カブーレウェブサイトより

「輪島 KABULET®」プロジェクトによって、①輪島 KABULET® 拠点施設 ②ゴッチャ！ウェルネス輪島 ③カフェ・カブーレ ④カーサ・カブーレ1 ⑤カーサ・カブーレ2 ⑥新橋邸 ⑦アサンテ が設立した。新橋邸とアサンテ以外はすべて空き家を改修した施設である。電動小型低速車によって施設をつなげる取り組みや、今後も新たな施設立地を計画している。

各拠点施設で障がい者が雇用され活躍することによって、しごとや地域交流の創出に貢献している。

こうした取り組みが評価され、「地方創生」を推進する内閣府まち・ひと・しごと創生本部が「生涯活躍のまち」先行7モデルの1つとして採択した。運用開始は全国で初めてとなる。

また、長期的なビジョンとして、輪島の工芸品である「輪島塗」の活性化支援にも取り組んでいる。「漆とともに成長するまち・ひと・しごとづくり」を目指し、漆器の商品開発や催事開発、店舗開発の計画や、漆の木の栽培にも協力・参画している。

## ■輪島 KABULET® の拠点施設

### 概要

延床面積：881.45㎡

構造：木造、一部鉄骨造、一部RC造、階数：3階

既存建物：大正5年／平成3年

(高齢者デイサービス 延床面積：127.99㎡、構造：木造、階数：2階、既存建物：昭和41年)

輪島 KABULET® の拠点施設には、温泉や飲食店、会合や交流などができる住民自治室などが設けられている。隣接地の高齢者デイサービスセンターを含めると、5軒の空き家とその間に挟まれた空き地を一体的に整備する増改築が施されている(写真1、3)。

#### 1) 天然温泉「三ノ湯・七ノ湯」

拠点施設内には浴場があり、漆をテーマにした装飾がある「三ノ湯」と、海をテーマにした内観の「七ノ湯」の2つがある。いずれも源泉掛け流し温泉であり、日替わりで2つの温泉が楽しめる。

河井町の7区と11区の住民は無料で入力できる。利用の際に、温泉の入り口横に掛けられた家々の姓が記された札を裏返すことで、札を見れば顔見知りか来ているか来っていないかわかるしくみである(写真4)。

天然温泉を目的に外国人観光客も訪れるようになり、国の内外を問わず、地域や文化の体験交流の場へと発展している。

#### 2) 蕎麦処「輪島やぶかぶれ」



写真3. 拠点施設に設置された案内板  
拠点施設には他の施設へと足を運びやすいように案内板が設けられている。屋外には足湯や温泉卵を作るゾーンもあり、気軽に立ち寄りやすい工夫がされている。



写真4. 天然温泉の入り口横にある入札札  
近隣209世帯分の入札札が旧町名の町内会ごとにかかられている。表面が黒字(不在)、裏面が赤字(入浴中)で記され、管理やコミュニティ形成に役立っている。



写真5. 蕎麦処「輪島やぶかぶれ」  
キッチン(写真左)、座敷(写真右)は開放的で一体的な空間となっている。写真奥には、天然温泉「七の湯」の暖簾が掲げられている。



温泉入り口前の通路に面して、蕎麦処「輪島やぶかぶれ」が設けられている。誰でも気軽に飲食することができ、入浴後の休憩場所としても利用されている。店舗は1、2階で構成されている。高齢者への配慮として、床は畳敷き、キッチンに対面するカウンターテーブルは掘りごたつ式となっている（写真5）。

蕎麦は、フェアトレードによってブータンから輸入した蕎麦の実を使用するなど、海外の現地生産者の支援にもつなげている。

### ■ゴツチャ！ウェルネス輪島

#### 概要

延床面積：312.49㎡、構造：鉄骨造一部木造、  
階数：2階、既存建物：昭和44年以前

拠点施設の道を挟んだ向かい側に立地する会員制の健康増進施設「ごっチャウェルネス」は、空き家1軒を増改築した2階建ての施設である（写真6、7）。

1階は壁一面が鏡張りのスタジオ、2階にはトレーニング用のマシンなどを配したトレーニングルームがあり、子どもから高齢者、障がい者も受け入れている。会員数は約200名、1日の利用率が50%を超えるなど、一般的なスポーツジムに比べて利用率が高く、退会率が少ない（2019年3月現在）。住宅地の中に立地し、地域密着型のフィットネスクラブとして気軽に利用しやすいことも起因していると考えられる。

### ■カフェ・カブーレ

#### 概要

延床面積：134.09㎡、構造：木造  
階数：2階、既存建物：昭和34年

2階建ての空き家を改修した子育て支援施設カフェ・カブーレは、1階はセルフ式のカフェ、2階はサロンとして利用されている（写真8）。

1階カフェに設置されたアイランド型キッチン是谁でも自由に調理をすることができ、セルフ式でお茶やコーヒーが飲めるため、子連れ世代や親子の交流の場となっている（写真9）。2階にはマッサージができる空間が設



写真6. ゴツチャ！ウェルネス輪島  
一般的なトレーニングやダイエット目的の利用だけでなく、介護予防や地域住民の健康づくりにも対応している。トレーナーが常駐し、多世代に利用されている。



写真7. ゴツチャ！ウェルネス輪島の1階スタジオ  
建物内外から視線が通るように、道路に面する壁は掃き出し窓がはめ込まれている。向かいの拠点施設とともに照明配置にもこだわり、防犯効果が期待できる。



写真8. カフェ・カブーレ  
1階はカフェ、2階はサロンの子育て支援施設。調理から片付けまで、すべてをセルフ方式にしている。子どもが遊べるように玩具や絵本も置かれている。

けられており、利用者が育児の合間にリフレッシュする場にもなっている。

そのほか、空き家を障がい者向けの短期入居住宅に改修した「カサ・カブーレ1・2」や、奥能登初のサービス付き高齢者向け住宅として2017年10月にオープンした「新橋邸」、障がい者が共同で生活することで自立を支援する女性向けのグループホーム「アサンテ」などを運営している。

また、簡易宿泊施設やグループホームの開設を計画するなど、輪島 KABULET® プロジェクトは、時代の流れに臨機応変に対応しながら、今後も進化を続ける。



写真9. カフェ・カブーレのアイランド型キッチン  
親子や主婦同士で料理が楽しめるアイランド型キッチン。内装には能登ヒバが用いられ、北欧デザインの家具や貸し出し用食器などが備えられている。